

令和5年度(2023年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表(最終評価)

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

I 教育目標とグランドデザイン 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

学校教育目標	グランドデザイン	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	地域の教育力を生かした多様な学びを実現 「人とつながる、地域とつながる、未来とつながる」	B	令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられ、コロナ前に戻りつつある1年であった。地域の行事等も再開され、地域に生徒が出ていく機会をより多く取り入れ、地域の教育資源を活用して、バラエティに富んだ諸活動が実施できた。今後も引き続き教科の枠を超えた協力体制を構築していく。一方、「学習時間の増加」に関して課題が残る。未来の目標達成のため具体的な方策をたて、生徒の主体的・意欲的な学び・学ぶ姿勢の育成に向け、生徒の受動的な姿勢を改めさせるために必要なことを考え、取り組んでいく。

松本美須々ヶ丘高等学校「3つの方針」

目指す学校像 地域の教育力を活用した多様な学びを展開し、地域とともに愛され続け、発展していく学校

DP: 生徒育成方針 グローバル化が進化する社会の中で自分の可能性を追求しながら、地域社会を支え、未来を創造できる生徒を育てます。
CP: 教育課程編成・実施方針 地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施します。
AP: 生徒募集方針 基本的な生活習慣が身につけ、多様な学びや体験活動に意欲を持って取り組む生徒を待っています。

令和5年度(2023年度) 重点目標 (令和5年度～令和9年度 中期目標)

- 教科の学習と探究的な学びの充実により、生徒一人ひとりが自らの進路と向き合い主体的に学ぶ姿勢を育成する。
- 積極的な情報発信等によって地域との接点を広げ、多様な人々とつながりながら学ぶことのできる、開かれた学びの環境づくりを進める。
- 相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の形成者としての考えを醸成する。
- 自主性を重んじる生徒会活動や探究活動によって得られる経験に立脚し、一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮し、他者と協働しながらよりよい社会や新たな価値を生み出していく姿勢を育成する。
- 先を見通すことが困難な時代において、生徒の悩みや不安に寄り添い、学校と家庭の連携と地域人材の活用を強化し、生徒にとって安心安全な学校づくりを進める。

II 今年度重点目標(部署別) 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
教務	(1) (2) (3) (4) (5)	①授業や諸行事が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画は適切であったか。 ・会議の効率化(ペーパーレス化など)が図れたか。	① B	・概ね適切であった。 ・職員会議、教務部会のペーパーレス化を行った。	・よりよい行事計画を模索する。 ・より効率的・合理的な方法を模索したい。
		②各学年や分掌と密に連絡を取り合う。	・各学年、分掌と連絡を取り、効果的な学校運営が出来たか。	② B	概ねできた。	・より連携を強め、学校全体でよりよい運営を目指したい。
		③安心・安全な学校作りを努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。 ・校内の危険箇所の把握に努めることができたか。	③ B	・地震発生時の初動訓練(4/26)、避難訓練(10/25)を計画通りに行えた。 ・防災用品を全生徒分揃えた。 ・中間改修に伴い、問題となる箇所を把握できた。	・万が一に備えて、今後とも、緊張感を持って安心・安全な学校作りをすすめてゆく。 ・段差の解消など、今後とも環境を整備していきたい。
		④「3つの方針」の推進と、状況に応じた見直しを行う。	・地域との連携、体験活動、研修などを設定・実施できたか。	④ B	・地域公開授業を行った。(6/13、10/26) ・地域の活動に参加できた。 ・ホームページ刷新計画をたて、次年度に向けてホームページを刷新するべく活動できた。	・今後も、周辺の教育機関や地域を連携し、様々な活動をおこなっていく。 ・地域の行事も再開し、文化系クラブを中心に、参加することができた。 ・より効果的な情報発信に努めたい。
		⑤ウィズ コロナ、アフター コロナにおける諸課題への対応に努める。	・生徒に不利益とならないよう、関係各署との連携ができたか。	⑤ B	概ねできた。	・コロナに限らず、他の感染症にも注意を払い、教育活動が遅滞なく進むよう、努力する。
進路指導	(1) (4)	生徒が自分の能力や適性を的確に把握して、探究活動を通して、科学や地域・国際社会にも目を向けさせ、主体的に自らの生き方を考えて進路を選択できるように、さまざまな機会をとらえて計画的、組織的な指導をする。	・個人面談、LHR、学年集会、進路の日、などの企画運営を通して、生徒が自分について考え、進路意識を高め、進路の選択をする機会や資料をえることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。	B	・年度当初の計画に基づいてコロナウイルス等の感染防止対策をとり、夏期のオープンキャンパスは制限をなくして参加を訴え、講演会や研究会などの進路機会を与えることができた。2学年では、外部講師による講演会も行い、意識を高めることができた。	・進路研究の充実と職業体験や大学等の1、2年時の選択科目調査と進路希望調査の連携からのオープンキャンパスへの参加など早期の進路意識の向上を図るようにする。 ・3年生は、具体的な進路希望調査を、3回実施することで早期の指導や進路実現に対する体制を作る。
		・予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。 ・ClassroomやClassi、ロイノートなどの活用方法を研究し活用を促進することで、生徒の家庭での学習の補助をする。	・平日の家庭学習時間1時間30分を達成できたか。 ・ClassroomやClassi、ロイノートなどを利用した動画配信などを生徒に活用させることができたか。	B	・GoogleClassroomやロイノートの活用により、学習意欲が高められたが、学習時間の確保に向けての意識を向上させることが十分できなかった。ICTの活用は進んでいる。	・家庭学習の時間を確保するために、試験2週間前からの学習記録表を提出させるなど具体的な方法論を学年と話し合い時間をとりたい。
		生徒の進路選択にかかわる情報や学習成績と模擬試験の結果などを職員間で共有し、家庭と連携を取りながら教科や学年に助言と協力を求める。	・模擬試験の結果を職員間で共有し、教科や学年からの助言を生徒にフィードバックすることができたか。	B	・模擬試験の結果の職員間共有が十分ではないが、面接指導や進学先の情報などの指導に役立っていることがきている。	・模試結果など学年通信等で報告されているので、学年内での情報共有ができています。学校全体での共有にするための方法論を展開したい。
		いかなる環境下においても学びを止めさせないために進路に関する情報と資料を収集し、生徒や保護者及び職員に正確に発信するとともに、家庭と協働し生徒の学習面、生活面、精神面の支援をする。	・各学年の学年通信で情報を発信したか。 ・必要に応じて職員会やメールを使った発信をしたか。	A	・各学年で定期的に学年通信を発行し、生徒や保護者にも情報が共有できるようにするだけでなく進路の情報提供も進路の手引きなどの活用により対応している。	・全体的に情報発信はされているので、教員共有のデータフォルダーに入れ、閲覧できるようにしながら、継続的に対応したい。

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
生徒指導		①日常生活において、生徒・職員を問わず気持ちよい挨拶ができる。また、交通ルールの遵守、交通マナーの徹底、ヘルメットの着用の推進など、安全意識を高める。	①社会や学校のルールを再度確認させるとともに、これを遵守させる指導ができたか、自転車ヘルメットの着用を推進できたか、生徒が事故を身近に感じ、被害者にも加害者にもならないための交通安全指導ができたか。	B	・毎月の職員による立ち番指導や安全委員会による呼びかけを行った。また、松本市による「ヘルメット着用促進補助金」の申請手続きを行う過程を通してヘルメット着用の推進を行い、交通安全に対する意識の向上を図ることができた。	・将来のヘルメットの着用義務化を見据え、来年度一年生に対する「ヘルメット着用促進補助金」交付を契機とし、より一層のヘルメット着用推進をすすめていく。 ・交通ルール・マナーのさらなる指導を重ね、事故の防止に努める。
		②生徒との面談機会を増やして生徒の様子を細かく観察し、変化の予兆をとらえる。マメールを発信し、家庭との連携を密にして、信頼関係を築く。	②HR指導、頭髮指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施できたか。また、匿名のアンケートを用いて生徒・家庭の意見に耳を傾け、的確に対応できたか。	B	・定期テスト時の頭髮等のチェックに基づく指導を学年中心に行い、状況を学年通信・メール配信等で情報提供した。生徒主体の挨拶運動に協力し、校内巡視も実施した。	・保護者への情報提供をさらに複数のチャネルでおこなっていただけたとありがたい。 ・生徒主体の挨拶・交通マナー・ヘルメットなどの呼びかけも継続したい。
		③職員があらゆるチャンネルを駆使して、生徒の小さな変化にも気づき、情報を共有し、他部署と連携して初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	③各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。特にSNSの使い方と成人年齢が18歳に引き下げられたことについて、生徒に注意喚起し、適切に指導できたか。	B	・スマホを中心として、情報機器とSNSの使い方とマナーについては、入学時の指導はもとより、折に触れて注意を喚起してきた。しかしながら家庭における保護者の意識向上と協力体制の強化が不可欠である。	・生徒への注意喚起・指導をさらにおこなっていく。平行して、保護者・家庭への意識向上や指導についての協力を強く呼びかけていく。
生徒会	(2) (3) (4) (5)	①他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。	① A	双蝶祭やクラスマッチなど、生徒会行事や生徒会が関わる活動において、コロナ前の活動を参考にしながら、コロナ対策も含め生徒が主体的、実践的に取り組めるよう支援することができた。 ・新体制では、役員の考えを話し合いに反映させるため、事前アンケートを実施した。また、生徒たちが自主的に、役員間のコミュニケーションを深める努力をしている。	引き続き、これまでの活動も生かしながら新しい発想を引き出せるよう支援していく。
		②集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携を図る。	・保護者・地域との積極的な連携が図れたか。	② B	・双蝶祭の一般公開では、展示だけでなく、露店も行い、保護者や家族だけでなく、地域の方や中学生にも多数来校いただき、生徒の活動を見ていただくことができた。 ・双蝶祭中、新体制確立後にユニセフ募金をを行い、社会の一員としての自覚を深めることができた。 ・校外清掃を実施することができた。 ・福祉施設でのボランティアや盲学校との交流等、コロナ以前のような地域と関わる活動は今年も出来なかった。コロナ禍で地域との連携を図る方法を今後検討していきたい。	・今後も、校外清掃は引き続き取り組む予定である。 ・校外での活動の制限が緩和した中で、社会福祉協議会等と連携を図るなど、広く社会へと目を向け、自らが主体的に興味関心を持って関わることのできる可能性を模索していく。
		③健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を推進する。	・健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。	③ A	ポストコロナの中、活動範囲が広がった。活発な活動を推進することができた。	活発な活動のためのヒントとなるようなアイデアを提供するとともに、生徒との協働を図る。
		④相互に尊重し、友情を深めると共に、規律を遵守し共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。	④ B	・コロナ禍での学校生活の制限やSNSの普及によるためか、知り合いでない人との関わりが得意ではない生徒が増え、役員全員が円滑なコミュニケーションを取ることがますます難しくなるように感じるが、情報を共有すること、顔を見て直接話をすることなどを意識して行うことで、視野を広げ他者を尊重する姿勢の涵養に繋がると考え、機会あるごとに働きかけを行った。 ・全盲の生徒の生徒会行事への参加の際、さりげないサポートができた。 ・オンラインで開催された「高校生ICTカンファレンス」において、事前の準備から参加者(7名)が協力し本校としての現状分析を行い、当日は、他の参加者と交流し、テーマについて理解を深め本校としての提言をすることができた。また、その成果を生徒会役員間で共有する場を作ることができた。	・他校との交流ができる研修会等に積極的に参加し、他者の意見を聞き、本校の生徒会活動に生かせるよう役員間で情報を共有させたい。 ・報告・連絡・相談をするよう、一層のはたらき働きかけを行いたい。 ・地域や未知なる分野へ興味関心を持つようなきっかけづくりを継続して行い、各自が得た情報や考えたことを共有する場を多く設定し、視野を広げ他者を尊重する姿勢を今まで以上に養えるように工夫を図りたい。
		⑤ポストコロナに対応したコロナウイルス感染防止対策をしながら、生徒が前向きに取り組む、新しい生徒会活動を作り上げていくよう支援していく。	・新しい生徒会活動の構築に向け、適切な支援ができたか。	⑤ B	・双蝶祭では、新しい形でのコロナウイルスへの感染対策をしながら、全校が小体育館へ参集する、一般公開の制限を解除するなど、コロナ前の形を参考に企画を考え試行錯誤の上、実現することができた。 ・役員会において、各委員会の活動を報告し、役員間で共有する取り組みをするよう働きかけた。 ・役員が中心となって、全校生徒が主体的に生徒会活動に取り組めるような働きかけを行うよう支援したい。	・他校の様子や、学校以外での取り組みなどの情報を役員が収集し共有させたい。 ・次年度へ向けて、役員が自ら考え意見を述べ熟議できる場を数多く設定したい。
清美		①清美委員会と協力し、ごみの分別・可燃ごみの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。	・資源ごみの分別徹底により、可燃ごみの削減ができたか。	B	①可燃ごみ R3年(4-11月)3,270kg(49,050円) R4年(4-11月)2,710kg(40,650円) R5年(処分方法変更により不明) 今後も分別を徹底し、可燃ごみ削減を目指す。	・引き続き、掲示・呼びかけ等を行い、ごみの分別を徹底する。
		②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちよい学習環境を整えられるよう、適切な清掃活動を計画する。	・ごみ収集、大掃除、ワックスがけ、カーテン交換、モップ交換などの清掃計画は適切であったか。	A	②予定された行事等は、計画通り実施できた。年度末のカーテン交換も、計画通り行う。 ②美須々の森の粗大ごみ及びごみ処分方法が大幅に改善された。	・適切な清掃計画を立てるとともに、現在のごみステーション周辺の状態を維持する。

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
図書視聴覚	(2) (4) (6)	①生徒の主体的・意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える。	・生徒の主体的・意欲的な学びを支援する教材・機器などを備えることができたか。	B	図書館資料の充実につとめ、生徒のリクエストにも答えながら、購入をした。電子黒板を始めとするICT機器が導入されたことで備品等も含め、細やかな配慮が必要で、連絡や連携をはかった。	機材の接触不良や画像が映らない、音声がでない等の不具合が時々起こり、苦慮するケースがあった。情報を共有し対応を考えていきたい。
		②図書館資料やICT機器を用いた授業における活用方法の研究を進める。	・授業における図書館資料やICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。	B	読書週間や旬間を始めとして図書館の資料活用を促す機会を作った。特設コーナーは好評であり、一層の資料の活用を促していきたい。ICT機器を用いた授業活用の研修会など職員への周知を図った。	必要に応じて積極的に研修会を実施していきたい。
		③ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携する。	・ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携できたか。	B	リモート授業など、ICT機器の活用は必須なので、さまざまな実践をサポートするよう努めた。文化祭では生徒会と協力することができている。探究などの授業で連携を模索し、円滑な学習支援できるよう研究を進めた。	学習面での連携を図るために教科間でも情報を共有し検討を重ねる必要がある。
保健教育相談	(2) (3) (5)	①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握、情報共有し、チーム支援ができたか。	B	各種健康診断、保健講話、講習は概ね計画通り実施できた。また季節や時期に応じた保健便りの発行で健康についての意識づけを行えた。	各種検診の計画的な実施を全職員と共有し、実施を行う。
		②安心安全な学校づくりのために、早期に生徒の状況を把握する。様々な手段を通じて悩みのある生徒を早期に把握し、実態に応じた対応を行う。また家庭や外部機関とも連携する。	・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。	B	スクールカウンセラーとの面談の要望があった際には早急につなげることができた。また、保護者のカウンセリングも増えつつあるが、様々な角度で連携を深めていきたい。	各種アンケートの結果を学年、全体で共有しより一人一人の状況把握に努めていく。
		③新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症に対して、衛生面の管理や情報の提供、校内での感染予防に努める。	・各種感染症対策として衛生面の管理、情報提供を適宜行うことができたか。	B	学校医との連携を取り各種感染症の状況把握ができた。生徒会の保健委員会の活動も計画通りでき、感染症予防の注意喚起が行えた。	手洗いうがいなどの感染症予防の基礎を再確認しつつ換気の徹底も継続的に行っていく。
渉外		①学校と保護者、同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行う。	・保護者の意見や要望について、関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることが出来たか。	B	ポストコロナで、役員の方を中心に、活動が積極的に再開(強歩大会見守りなど)されている。	来年度も、文化祭等でも計画されている活動を盛り上げていきたい。
		②PTA総会・理事評議員会をポストコロナに対応した形で、4年ぶりに開催する。また、地区PTAは昨年度役員会での承認を経て、廃止に向けて準備を進める。	・ポストコロナに対応した形で、PTA活動の再開ができたか。	A	今年度は、4年ぶりにPTA総会・理事評議員会など開催できてよかった。	地区PTAの廃止が総会で決定され、来年度の総会でそれに対応した会則の変更も行う。(代わりに、)PTAからの資金援助で生徒の声も参考に、本校のホームページのリニューアルが進められている。
探究指導	(1) (2) (3) (5)	①「総合的な探究の時間」を充実させるため、研究を重ね、深い学びの実現を目指す。	生徒の主体性を引き出す工夫をしたか。きめ細かな指導に向けた改善を行ったか。	B	生徒同士でアドバイスし合ったり、活動状況を報告し合ったりさせた。活動のステージごとに生徒に状況を報告させ、進捗状況が確認できるようにした。3学年の成果発表を2&1学年が聞く合同発表会を9月に開催した。	視野が広がり、進路探究や進路実現にもつながる探究学習の意義や価値に気づかせる指導を充実させる。また、他校の探究学習の取り組みなども参考にしていく。
		②多様な学びを展開するため、地域との連携を推進する。	テーマや課題に関する情報の提供や人材の紹介などの機会を増やせたか。これまでの連携の取り組みをさらに充実させることができたか。連携先を開拓できたか。	B	松本市役所地域づくり課と連携し、探究テーマの設定や調査の進め方などについての相談会を開いたり、生徒の要望に応じて取材先を紹介したりした。信大との連携では、大学生に探究活動のアドバイスやプレゼンのノウハウなどを提供してもらい、さらに、税に関するワークショップや留学生との交流会も開催した。	授業や実習、ゼミ活動への参加、研究室や農場などの見学など、県内の上級学校との連携を拡大していく。
		③キャリア教育を推進し、生徒の人生観・職業観を育み、個々の進路実現を支援する。	生徒の社会活動への参加を促進させることができたか。多様な学びの場を提供することができたか。生徒の進路実現に貢献したか。	B	松本市社会福祉協議会のボランティア登録制度を紹介したり(11名登録済)、募集中のボランティア活動の情報を流したりした。今年度は工業製品の展示会(「諏訪圏工業メッセ」)の見学会を企画実施した。ただし、活動や企画の参加者は限られているのが現状である。	社会活動や探究活動に積極的に取り組んだ実績が評価され、総合型選抜や学校推薦型選抜の入試で合格を勝ち取ることができた生徒が毎年確実にいる。このような事例を成功事例として蓄積し、校内(生徒+教員)で共有できるようにしていく。

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
1 学年	(1) (2) (3) (4) (6)	①高校生としての基本的な生活習慣(時間厳守・挨拶・掃除)を確立し、活力ある、けじめのある高校生活を送る。	・時間厳守・挨拶・清掃等の基本的な生活習慣が身についたか。	B	・全般的には、基本的な生活習慣が身についてきたと思われる。2・3年生に比較して挨拶は今一つのところを感じる。	引き続き、欠席や遅刻等については、進路目標をしっかりと持たせて、支援をしていきたい。
		②日々の学習内容・学習態度・学習方法を振り返り、基礎学力の定着をはかるよう指導する。 ・平日及び週末課題を課し、家庭学習習慣の確立をはかる。 ・学年独自の『学習の手引き』を作成し、学習方法のアドバイスを行う。	・基礎学力の定着、家庭学習の習慣が定着したか。	B	模試などのアセスメント教材から学習に向かう意欲が低かったため、考査前や模試の前に朝学習を実施し、基本的な学習習慣の定着を強化することを図った。 目に見える成果はまだないが、定着には時間がかかるため、継続的に行っていきたい。	朝学習の内容の精選や、生徒のやる気を引き出すような工夫についてICT教材も研究しながら進めていく。
		③2年次に向け進路実現のための文理選択を考えさせる。 ・上級学校見学などの進路研修や総合的な探究の時間、LHRを通じて、自分の進路について考える。また、早い段階で、学部学科を視野に入れながら、文理選択を行い、より自分の進路を絞り込む。 ・ライフプランの作成を通して、将来の職業について考えさせる。	・早い段階での学部学科を視野に入れながら、文理選択ができたか。	A	6月にライフプラン講座、10月に上級学校見学を行った。また、12月からはミニ進路講座として、講師の方をお招きして講座を行っている。年間を通して、生徒の進路意識を高めることができた。	次年度も継続してミニ進路講座を行い、進路意識を高めていく。また、進学希望の生徒が多いので、進学先についてのポイント講座などを実施し、進路先にこだわりを持たせる工夫を行う。また、来年度は、希望者参加の学習合宿を夏休み中に予定しており、受験勉強の方法や心構えを学ぶとともに、強く進学を希望するものの仲間作りができればと考えている。
		・探究学習では、自分自身に目を向け、自分の興味・関心があることを追及させる。 ・課題テーマを設定し、情報収集、分析・整理、表現・まとめ、振り返りといった一連のプロセスを学ばせる。	自分に興味関心があることや探究のプロセスが理解できたか。	B	探究ナビ(ベネッセ)から探究の基本的知識や方法を学ぶことができた。7月下旬にコミュニケーションズアイの講師から自己理解や地域理解についての講演を受けたり、インスパイアハイを用いて様々な視点から生き方・学び方・他者理解・表現方法を学べた。	探究発表の様子を聞いているとテーマ設定、情報収集、表現方法やまとめ方に個人差を感じた。個へのアプローチをどのように工夫するか試行錯誤が必要。また、外部人材や教材を積極的に用いた年間計画も大切だと感じている。
2 学年	(1) (2) (3) (5) (4) (1)	①基本的な生活習慣を確立した上で、自己の進路希望の実現に向けて計画的な学習を身につけるよう指導する。同時に部活動等の課外活動との両立を目指し、そのための自己マネジメント力の向上を図る。	・計画性を持った生活スタイルを立て、充実した学習活動および部活動等ができるよう指導できたか。	A	多くの生徒が基本的な生活習慣が身についてきた。計画的、積極的に学習に取り組む姿勢については、まだ改善の余地がある。 各種課外活動では、多くの成果を残すことができた。	各自の進路を意識させることで、積極的、主体的に学習に取り組むよう指導する。
		②地域に関心を持ち、探究型学習の内容を計画性を持って進め、身の回りにある様々な問題を意識するように導く。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用し、身の回りにある様々な問題を意識できたか。	B	各自が問題意識を持ち、計画的に探究を進めることができた。グループ毎の発表を経て、探究フェスタに向けて準備中。	身の回りにある様々な問題から社会の問題を意識できるようにしたい。
		③学年通信・学級通信等も含め積極的に学校からの情報を発信し、家庭と協力することで生徒の安心安全な生活をサポートする。	・家庭と連絡を密にし、生徒個々の状態を把握することができたか。	A	学年通信等で進路の情報を提供することで意識の向上に繋がった。また、面談等で各自の進路を見据えた科目選択実現に向けて前進できた。特に大きな問題行動もなく、安心安全な生活はサポートできた。	さらに生徒の内面に寄り添った指導をする。
		④自己を大切にするとともに他者を理解尊重する姿勢を養う。	・自己肯定感を醸成し、多様な価値観を持つ他者に対する配慮ができるよう導けたか。	A	生徒会活動やクラブ活動、探究の時間などの活動を通して、多様な他者に触れてきた。	引き続き他者の心に寄り添えるような指導を行ってゆく。
		⑤ICT機器やネットの適切な利用を促し、これからの情報化社会で生活していく力を養う。	・SNSやWebの良否を理解し、タブレットやスマホを適正に利用できたか。	B	本来タブレットを使用する場面でありながら何らかの理由でスマホを使っている生徒がいる。SNS関係は今年度はトラブルは無い。	タブレット・スマホの適正な使用を指導する。
3 学年	(1) (4) (3) (4) (2) (5)	①大学入試共通テストをはじめ、さまざまな入試、進路情報を提供しながら、生徒一人ひとりの進路実現の具体的なプランと実践を支援していく。 ②探究型学習を通して、自分の進路を考察し、積極的に社会を形成する意識を育てる。	・大学入試をはじめ進路情報について共有出来たか。 ・生徒個々の進路希望について保護者とも相談しながら学年全体で対応出来たか。 ・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	① ② A	進路通信の発行や個別の面談を複数回行うことで一人ひとりの進路実現をサポートすることができた。 探究の時間を有効に活用して、自身の進路についても関連させながら考える活動ができた。 多様化する入試方法にも対応できるように情報を収集し共有した。	通常授業や補習授業、特別編成授業で共通テスト対策や一般入試の対策を工夫しながら指導したい。 総合力が問われているので、探究の時間を活用しながら力をつけていきたい。
		③生徒会活動やクラブ活動など学校生活において自主性を育みながら、他者を尊重し協働する精神を養う。	・様々な場面で日頃の活動を見守りながら、他者理解や多様性を尊重する心の醸成を手助けできたか。	③ A	生徒たちとしっかりとコミュニケーションをとりながら活動ができた。今まで培ってきた伝統的な活動や蓄積されたノウハウはコロナ対応で失われてしまった。皆で知恵を出し合いながら主体的かつ活発に活動が行えた。	前年度踏襲ではなく、あらたな取り組みなど挑戦する姿勢を持って支援していきたい。また他者理解や多様性を尊重する心、協力する姿勢も引き続き醸成していきたい。
		④Classi、Google Classroomなどを日常で有効活用することで家庭との連絡を密にし、生徒が安心安全に学習活動に取り組む、充実した高校生活を送ることができるようサポートする。	・日頃のSHRや授業、また学年・学級通信配信など家庭との連携に有効活用できたか。 ・クラスを中心として学年、学校全体で生徒の支援が出来たか。	④ A	コロナ対応で培ったICTのスキルを授業やクラス、学年運営で円滑な対応ができた。	引き続き、効果的なICT機器の活用を研究しながら学校全体で考えていきたい。それぞれの部署で情報共有をしていきたい。

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
国語	(1) (3) (4)	①言語教材、その他データ資料から正確に内容を捉え、現代社会の情勢を知り、我がこととして思考する力を育成する。	・目標達成のために資する適切な教材を設定できたか。 ・語彙力向上のための小テストを有効に活用できたか。	B	・従来の教材とデジタル教材を活用した授業展開ができた。 ・小テストによる学習習慣の定着が図れた。単元ごとの学習達成評価につなげるテストのあり方を研究する必要がある。	・デジタル教材活用の教員間の情報共有を進めたい。 ・他教科の実践も参考にし、課題や小テストの配置を整えていく。
		②生徒同士のコミュニケーションを活かし、自分の意見を発信する力、他者の意見を聞くことによる多様な考え方を受け入れ柔軟に思考する力を育成する。	・生徒間コミュニケーションを図れる授業、記述レポートなどを組み込んだ授業展開ができたか。	B	・各学年で、ロイノートをはじめとしたデジタルツールを活用し、生徒間の活発な意見交換が行えた。多様な意見の共有とそこから発展する思考力の育成が図れた。	・デジタルツールの活用事例を教員間で共有していく。
		③口頭(プレゼンテーション)、文章ともに、自らの考えを論理的に他者に伝えるように表現する力を育成する。	・生徒の進路に沿った表現の指導ができたか。	B	・文章指導は随時取り入れられているが、口頭表現の機会がうまく取り入れられないという課題がある。	・探究発表の年間の流れと合わせる形でプレゼンテーション指導の調整を図る。
		④古典文化と現代社会とのつながりを示し、幅広く深い教養による豊かな人間性を育むとともに、生徒の探究心を刺激するような授業展開を研究する。	・生徒の探究心を刺激するような授業研究のために、教員間で情報交換や授業参観ができたか。	B	・デジタルコンテンツを活用し、現代社会とのつながりを提示する授業展開ができた。授業参観を行い、教員間での情報交換や授業改善につなげることができた。	・引き続き、教員間での情報共有を行い、より魅力的な授業を研究していく。
地歴公民		①広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会を形成する主権者を育成する。	・主権者意識を高める学習活動を行えたか。	B	例えば、イスラエルによるガザ侵攻を取り上げ、重点的に掘り下げ、生徒にレポート課題で主体的に考えさせた。また、信州大学や税理士会など連携して財政や租税の役割を学ぶワークショップを実施した。	タイムリーなテーマを重点的に取り上げ、生徒の主体的な取り組みを工夫し、主権者意識を育てていきたい。
		②地球的課題に関する知識を身に付け、それらを解決しようとする態度、他国や他文化を理解し尊重していく態度を身につけさせる。	・ディスカッションやレポート作成、生徒による自己評価、定期考査などを通して知識の定着と理解が図れたか。	B	当事者意識を持たせるため「自分ならどうするか?」の問いに対し、自分の考えを表現する機会として、グループディスカッションやレポート作成などを意識して設定するようになった。	課題の与え方・評価の方法など、さらに研究を重ねていくことが必要と思われる。
		③生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業について研究する。	・授業改善を行えたか。	B	例えば、死刑制度の賛否・若者の投票率の低さなど工夫したレポートが課された。	授業担当者間の連携を密にして、更なる指導方法や評価の工夫を図りたい。
		④生徒の学びの幅を広げるため、ICT機器やオンライン学習システムなどを活用して新しい指導方法を研究する。	・新しい指導方法を導入できたか。	B	例えば、若者が何故投票に行かないかをタブレットで記入させ、集めたデータを自動的に集計し、そこから興味深い授業展開がみられた。	教科内で指導方法の情報共有を行い、他教科の情報も参考にしながら、教育効果の高い方法を工夫していきたい。
数学	(1) (2) (3) (4)	①基礎事項の定着を図り、思考するための土台を築くことができたか。	・単元テストや確認テスト等を定期的に行い、生徒の到達の度合いを確認することができたか。	① A	単元テストを考査間で定期的に行い、生徒の到達の度合いを確認することができた。	間違えやすい部分の傾向を把握し、授業に生かすことをめざす。また、単元テストの実施回数についても今後検討していく。
		②ICTの利用を促進し、図やグラフ等を視覚に訴えることで、生徒の理解力を深める。また、ICTを活用した授業展開を研究する。	・ICTの効果的な活用について意見交換ができたか。また、授業の質の向上を図ることができたか。	② A	ロイノートやSビューア等をICTを活用した授業を展開することができた。	効果的な活用方法について授業者が互いに意見交換をする機会を増やしていきたい。
		③論理的に思考したことを「言語」によって表現できる能力を育成する。	・授業や提出課題、考査等で、生徒が論理的に記述をすることや発言をすることができる力を身につけるよう支援できたか。	③ B	授業で考える活動を増やすことができた。論理的に解答できる生徒が徐々に増加した。	共通テスト等から数学の力だけでなく読解力、論理的に考え表現する力を養う必要がある。今後の授業内容についても検討を重ねたい。課題の効果的な取り組みについて研究を重ねていきたい。
理科		①自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うと共に、理解を深める。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする力が身につけられたか。加えて、理解を深められたか。	B	ユニバーサルデザインを取り入れた、動画・スライド・プリント等を活用することができた。	観察・実験は科学的探究にとって最も重要な活動であるため、今後もさらにユニバーサルデザイン等を取り入れた上で充実させていきたい。
		②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。また、そのために必要な技能を身につける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につけられたか、さらに、そのために必要な技能が身についたか。	B	例年並みに実験を行うことができた。実験や観察を通して探究心や実験技術を身につけることができた。	昨年度に引き続き補習や探究による個人ごとの実験や指導は一定の成果が得られた。来年度以降も継続して実施したい。
		③授業におけるICT機器や各種アプリケーション(ロイノート、Google等)の効果的な活用方法について、教科内外の授業相互視察等をおして、研究を推進する。	授業におけるICT機器や各種アプリケーション(ロイノート、Google等)の効果的な活用方法について、教科内外の授業相互視察等をおして、研究を推進できたか。	B	研究授業を始めとした授業相互視察をとおして、Google classroomやロイノートの活用方法を研究することが出来た。	今後もICT機器の利用、特にタブレット端末の活用などを推進し、授業や業務の効率化を図りたい。
		④教科内の会議や報告・連絡・相談について、Teamsを適切に活用できるよう、実践と研究を推進し、働き方の改善に努める。	教科内の会議や報告・連絡・相談について、Teamsを適切に活用できるよう、実践と研究を推進できたか。	B	教科会を始め、日々の報告・連絡・相談についても、Teamsを効果的かつ適切に活用することができた。	Teams内のアプリケーション等を含め、今後も実践と研究を進めていきたい。

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
保健体育	(1) (3) (4)	①運動に関する知識を深め、技能・体力の向上を図り、運動の楽しさや喜びを味わい、仲間と協力する姿勢を身に付ける。また、生涯スポーツにつながる資質や能力を育成する。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させられたか。集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、仲間との協力や運動の楽しさを実感させられたか。 ・安全管理は適切であったか。 ・運動量は確保できたか。 ・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容を提示できたか。	B	・2・3年生においては適切な服装・時間を守る等、ルールやマナーを把握して授業に取り組むことができた。女子生徒の中で仲間との共同に欠ける部分が残念であった。 ・1年生についてコロナ禍で体育において十分な活動がないうまま入学し、体力的な不足や、技能の不足を感じた。	・体育の授業においてロイノートの活用を行ったが概ね良好な取り組みができた。 ・コロナ禍で中止していた柔道の授業について検討して行かなければならない。
		②健康の保持増進のための知識や実践力を身に付け、実生活において活用できる考えを育て、明るく豊かな活力のある生活を育む態度を育てる。		B	コロナの5類移行後の緩和された中での意識不足の結果、インフルエンザの流行につながったと思われるが、保健の授業の中でも取り上げるべきであった。	・ICTの活用が進んでいるが、更に発展してできるように努めたい。
芸術		①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を設定し、意欲的に自己表現する姿勢を育成する。	・生徒が様々な芸術文化に興味関心を持ち、意欲的に取り組める教材設定ができたか。	A	生徒が興味関心を持てる教材設定は、概ね達成できていると考える。	更に、「生徒自ら」意欲的に取り組める教材の構築をしたい。
		②国内外の様々な芸術文化に関心をもち、それぞれの芸術文化を尊重する姿勢を育成する。	・生徒個々の能力を見極め、意欲的に課題に取り組むための生徒支援ができたか。	A	授業観察を通して、個々の能力を踏まえながら助言や指導を行なった。	今後も、生徒が課題に興味関心を持ち積極的な取り組みができるよう丁寧に観察・支援を行う。
		③様々な表現活動において、自らが積極的に活動することはもとより、他者の表現を尊重する心を育み、共同して表現活動を行うための協調性を育成する。	・グループ活動における共同作業をスムーズかつ有意義なものとするためのアドバイスなど、生徒支援ができたか。	B	生徒の活動を見守りながら、効果的なグループ活動の支援を行なった。	共同作業において、なかなか積極的にかかわれない生徒に対して、協調性を育む指導を研究したい。
外国語		①英語の基礎となる単語、熟語、構文、文法などを定着させる。	①生徒の態度や目標に応じて適切な教材や学習方法を示し、学習定着の工夫ができたか。	① A	・週1回の単語テストやリスニングなどの課題を出して学習習慣が定着する指導を行なった。	・学力の個人差に応じた学習計画の設定を行っていき、ICTツールを絡めながら深い思考を育成していき。
		②グループ学習やプレゼンテーション活動を通して、生徒自身の意見を英語で発信する能力を育成する。	②生徒に意見を発信させる機会や課題を与え、適切な助言や指導ができたか。	② A	・ペアワークやグループワークを積極的にに行い、英語での意見発信活動を促した。また、ALTとのTTや放課後の英語クラブを通して4技能を育てる指導ができた。	・言語学習に不安の大きい生徒の学習支援を精力的に行っていき、クラス全体での学習目標が到達できるよう工夫を図りたい。
		③英語検定などを活用し生徒の能動的な活動を通して、4技能とともに思考力やコミュニケーション能力を育成する。	③知識定着に加え言語活動を多く取り入れ、英語検定などを活用し英語の運用能力を総合的に育成することができたか。	③ A	・今年度は2回実施し、生徒の進路実現の一助となる機会を設けた。受験を通して普段の学習につながる動機づけができた。	・受験を希望する生徒に積極的な参加を促し学習機会を増やしていきたい。また、2次試験対策では個人指導も併せて行い、合格につなげたい。
家庭	(1) (2) (3)	①急速に変化する社会の状況に目を向け、多様化する家族・家庭や生活様式について理解し、自らの生き方をデザインする姿勢を育成する。	・社会の出来事に興味を持たせ、現状を理解し、自分の生活と関連づけて考えさせることができたか。	① A	・消費生活や生活設計、職業と働き方、結婚と家族等、自らの生き方について考える学習テーマを題材として扱い、社会の状況について理解を深める学習活動を取り入れることができた。	リアルタイムなニュースや新聞記事を活用しながら、今後の社会の状況に注目し、自分の生活と関連付けた学習活動を取り入れたい。
		③「持続可能な社会」の実現に向けて、家庭生活や地域社会へ関心をもち、自ら課題を発見し、解決していくための知識や実践力を身に付ける。	・学習で得た知識・技術を活用し、生活を巡る様々な問題を意識させ、課題解決に向けた学習活動を充実させることができたか。	③ B	・SDGsの目標について調べ、自分たちができることを話し合い、ポスターに表し提示することができた。 ・衣生活や食生活について学ぶ中で、「持続可能な社会」について意識させることで課題を発見し、生徒間の対話によって解決の糸口を見つけられるよう支援することができた。 ・日常生活で解決へ向けた行動ができるような実践力をつけたい。	生徒自らに調べさせる一方、家庭や地域社会をめぐる問題をわかりやすく提示し、自らの行動を変えていけるような教材の研究を進めたい。
		④ICT機器を活用した教材作成のため、校内での授業見学や、Webでの研修を通して、研究を深める。	・ICT機器を活用した教材作成を通して、生徒が主体的に学習する環境を整備することができたか。	④ A	・ICT機器を活用した教材作成や生活課題の解決につながる学習指導について整備を進めることができた。 ・被服製作及び調理実習では、作業工程のスライド資料やワークシートの事前配信等を行い、ICTを活用しながら授業を進めることができた	・今後は、ロイノートの活用方法について研究したい。
情報	(1) (3) (5)	①LifeisTechなど最新の情報技術を利用して情報技術、情報モラルについての基礎基本を定着させる。	・情報に関する基礎的な知識理解ができたか。	A	・高度情報化社会を生きる生徒たちに必須の最低限の知識を持ってもらうことができた。	・今後は座学としての情報工学の内容、知識理解をさらに深めることができるよう研究を進めてゆきたい。
		②ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的操作を習得させる。	・基礎的な情報リテラシー技能の習得ができたか。	A	・卒業後にも役に立つ技術をつけることができた。	・今後は生徒個人が最低限自学自習して学べる方法を習得させてゆきたい。
		③LifeisTech社とも協力し、YouTubeやGooglemeetなどを導入した授業の実践についてWeb会議、研修を積むとともに実践に活かす。	・ICTを活用してLifeisTech社より配信された動画、Web授業等を校内や家庭で受信でき、効果的に有効活用できたか。	B	・年間2回にわたるWeb研修も無事に修了し、授業の実践につながる事ができた。	・今後は、共通テストへの対応について研修・研究を進めてゆきたい